

【1回目（2月12日）】

はじめに、“手話”と“手話通訳”についての説明がありました。

“手話”とは

- ・きこえない人たちが気持ちを伝えあう大切な言葉
- ・手と指だけでなく、体・目・顔の表情などを使って話す方法

“手話通訳”とは

- ・手話を声に換えたり、声を手話に換えたりすること
- ・きこえない人ときこえる人のコミュニケーションをつなぐこと
- ・その仕事をする人を“手話通訳者”という



1回目では、挨拶や自己紹介の言葉など日常生活の中ですぐに使えそうなものや、身近な自然や生き物の表現の仕方について、また、指文字や数字など基本的なものを中心に教えていただきました。テキストのイラストを見ながら、まずは、講師が手や指の使い方を見せ、それを受講生が真似ていきます。すぐには同じように動かすことができず、苦戦する姿もありましたが、講師が、その表現の成り立ちを1つ1つ丁寧に説明してくださったので、「ここがこうなって…ああ、なるほど！」など、細かく理解を深めながら覚えることができたようです。

***ここで、動きや形が基になっている手話での表現を、いくつかご紹介します。**

- ・うさぎ…両手の甲(手のひらではなく手の甲)を相手側に向け頭の上に置き、うさぎの耳を表現
- ・ねこ…右手をグーにして頬の横に持って行き、丸く撫でる仕草
- ・森…両手の手のひらを自分側に向けて並べ、交互に上下させながら、左右に開いていく
- ・山…右手の手のひらを下に向け、左から右へ山の形を描く



← ・藤の花

下に向けた左手の手のひらの下に、半開きした右手をつけ、左手はそのままに、右手をひねりながら下げて指を閉じる。

休憩後は、学んだばかりの表現を使い、順番に手話で自己紹介をしました。

少し緊張した表情を浮かべる受講生の方もいましたが、講師に、手指の動きを、ひとつずつ確認しながら発表してくださいました。また、講師が日々の生活の様子も話してくださり、“きこえない”ことがどういった状況なのかについて感じ、考える機会にもなったと思います。



指文字

- ・日本語の50音を指の形で表します。
- ・物や人の名前を表すときに使います。



(※配布テキストより)

【2回目（2月19日）】

2回目は、例えば、“飲む”“増える”など動きや特徴をそのまま表現したもの、趣味や仕事についてなど、生活の中で会話のきっかけになりそうな表現、場所案内の方法など、実践的なことを教えていただきました。また、講師から「手指の表現だけではなく、表情や動きの速度にも気を配ることで伝わりやすくなる」ことや、「1回で覚えることは難しいので、間違えることを気にせず、伝えようとしてほしい」ことなど、手話を学ぶ上で大切なことも教えていただきました。



ろう者とのコミュニケーション方法



「手話」表現で大切なこと

・「よく見ること」 **観察力**

・「伝えることを意識して表現すること」 **表現力**

(※配布テキストより)

講師の話「きこえない方が困っていたら、
ためらわずに行動を起こしてほしい」

『体験してみよう！はじめての手話』という講座名でしたが、基本的なことから実践的なことまで、幅広く学べる2日間だったと思います。受講生からも“沢山のことを学ばせてもらった”“すぐ実践ができて良かった”“指の動きも分かりやすかった”“質問もしやすい和やかな雰囲気”“リラックスムードで楽しくできた”などの感想をいただきました。

楽しい学びの時間を提供してくださった秋山さん、塩田さん、香西さん、ありがとうございました。

ご参加くださった受講生の皆様も、ありがとうございました。

講座をきっかけに、手話での表現を身近に感じ、少しでも学んでみたいと思う方が増えると、嬉しいです。